

令和元年度

本白根山・白根山（湯釜付近）火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 議事概要

1. 日 時

第1回：令和2年1月30日（木）11時30分～15時45分

2. 場 所 草津町役場 4階大会議室

3. 委 員

【委員長】

石川 芳治 （東京農工大学 名誉教授）

【学識委員】

小川 康雄 （東京工業大学 教授）

木川田 喜一 （上智大学 教授）

白木 克繁 （東京農工大学 准教授）

野上 健治 （東京工業大学 火山流体研究センター 教授）

平林 順一 （東京工業大学 名誉教授）

【委 員】

別紙の通り。

4. 議事概要

【本白根山】

○融雪型火山泥流の対象とする規模

- マグマ噴火期の火砕流に伴う融雪型火山泥流の対象とする規模は、各溪流において現実的に施工可能なハード対策を実施した場合に、数値シミュレーションにより減災効果が期待できると判断される規模とする。
- 具体的な数値（火砕流規模・積雪深）については次回の委員会で議論する。
- 今回の資料では、保全対象を人家・施設としているが、避難計画に利用される道路等の保全については、次回の検討事項とする。
- 氾濫数値計算の条件については、根拠を明確にしておくこと。

【白根山（湯釜付近）】

○噴火に伴い発生が想定される現象と規模

- 水蒸気噴火においては、火砕流（小規模・低温）の発生を想定するが、この火砕流に伴う融雪型火山泥流の発生は想定しない。

- ただし、水蒸気噴火による低温火砕流に伴う融雪型火山泥流が発生した場合に、どの程度の量になるのか確認すること。
- 水蒸気噴火期の火砕流の規模は、本白根山と同様に、浅間山における中規模噴火規模である 27 万 m³ を想定する。
- マグマ噴火においては、白根山（湯釜付近）からの火砕流の発生が想定される。
- マグマ噴火に伴う火砕流及び融雪型火山泥流の影響範囲については、次回の委員会で提示すること。

○想定火口範囲

- 想定火口範囲は、湯釜・弓池・逢ノ峰の過去の火口跡を網羅する範囲として設定する。

○火口湖決壊型の融雪型火山泥流の影響範囲の見直しの必要性

- 火口湖決壊型の融雪型火山泥流については、湖水温の条件等を精査して確認すること。

以上

令和元年度 第1回 本白根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会

委員名簿

氏名	所属、役職
石川 芳治	東京農工大学 名誉教授 (砂防)
小川 康雄	東京工業大学 教授 (火山)
木川田 喜一	上智大学 教授 (火山)
白木 克繁	東京農工大学 准教授 (砂防)
野上 健治	東京工業大学 火山流体研究センター 教授 (火山)
平林 順一	東京工業大学 名誉教授 (火山)
水野 正樹	国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 深層崩壊対策研究官
三輪 賢志	国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 上席研究員
西脇 誠	気象庁 地震火山部 火山課 火山監視・警報センター所長
山田 隆徳	気象庁 前橋地方気象台 台長
内藤 宏人	気象庁 長野地方気象台 台長
廣田 祐一	林野庁 関東森林管理局 吾妻森林管理署長
奥山 正樹	環境省 信越自然環境事務所長
佐藤 寿延	国土交通省 関東地方整備局 河川部長
田部 成幸	国土交通省 北陸地方整備局 河川部長
堀越 正史	群馬県 総務部 危機管理室長
大竹 哲也	群馬県 県土整備部 砂防課長
柳沢 秀信	長野県 危機管理部 危機管理防災課長
藤本 済	長野県 建設部 砂防課長
黒岩 信忠	群馬県草津町長
熊川 栄	群馬県嬭恋村長
伊能 正夫	群馬県中之条町長
萩原 睦男	群馬県長野原町長
内山 信行	長野県高山村長
竹節 義孝	長野県山ノ内町長